令和５年度学校だより

善誘館

全国学力・学習状況調査の結果について

甲府市立善誘館小学校　校長室

校　訓　「善行・勤勉・体育」
学校教育目標
○　思いやる心をもつ子
○　よく考え工夫する子
○　元気でたくましい子

２０２３．１０．６

◎全国学力・学習状況調査の結果について

○全国学力・学習状況調査とは

本年度の全国学力・学習状況調査は，４月１８日（火）に全国の小・中学校において実施され，本校でも６年生を対象に実施しました。内容は「国語」「算数」「質問紙」となります。平成１９年から始まったこの調査の目的は，教育の機会均等と教育水準の維持向上の観点から，子供たちの学力や学習状況を把握し，教育施策に反映させるとされています。また，教職員の指導力向上もねらっています。本校においても，その趣旨を理解するとともに，学力や生活状況を把握し，その改善に努めてまいります。その調査内容は以下のとおりです。

◇教科に関する調査（国語・算数）

・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能等。
・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

◇質問紙調査

・学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

こうした学力調査の実施は，児童の学力や学習の状況を把握・分析し，教育活動の成果と課題を確認し，その改善を図ることを目的としています。今年度の調査結果を分析し，その取り組みについてまとめましたのでお知らせします。

○本校の学力・学習状況調査の結果について

◇教科に関する調査（国語・算数）について

①全国の平均正答率との比較（全国・山梨）

文部科学省では，平均との差±5%を微差とし「±5%は，ほぼ同等を意味する」としています。このことを基に**±5%の範囲にある場合「ほぼ同等」，＋5%以上を「上回っている」，－5%以下を「下回っている」と表します。**

（参考）教科別の平均正答率：全国と山梨県比較

	国　　語	算　　数
全国　平均	６７．２%	６２．５%
山梨県平均	６６　　%	６１　　%

※都道府県正答率の小数点以下はあきらかにされていません。

②本校の教科に関する問題の状況（全国・山梨県との比較）

本校の結果は，全国平均正答率の±５%の範囲内にある場合は全国平均とほぼ同等という観点からすると，**国語は全国及び山梨県平均とほぼ同等ですが，算数は全国及び山梨県平均を上回っており，基礎的・基本的な知識・技能が身についており，それらを活用する力が伸びてきているという結果となりました。**

③傾向や課題

【国　語】

正答率を全国・県と比較すると上記のような結果となっています。情報と情報との関係を読み取ったり文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったりすることに課題が見られました。

学年別漢字配当表に示されている漢字の習得率については，今回の調査結果だけでは正確に分析

することは難しいですが，特に，間違って表記されている漢字を正しく書き直す問題の正答率が低かったです。敬語については全国平均正答率を大きく下回る結果となり，課題が見られました。書き表し方を工夫したり文章を読んで自分の考えをまとめたりするなど，これまでも本校児童の課題としてあげられてきた「読み取る力」や「書く力」に課題が見られました。

【算　数】

正答率を全国・県と比較すると前述のように，全国・県にくらべるとやや高い結果となっています。小数の加法と乗法，加法と乗法の混合した整数の計算，（２位数）÷（１位数）の筆算，百分率など，主に計算に関わる基本的な知識･技能はできていました。また，２つのグラフの読み取りや二次元の表の読み取り，図形の基礎的な知識・技能についてもできていました。

全般的に全国平均以上の結果ではありましたが，問題で示された条件を理解し関係性を比べたりグラフや表を読み取ったりした上で，式や言葉で記述する問題に，やや課題が見られました。

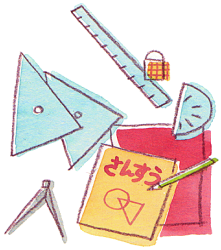
③本校の各教科における主な改善点及び授業における具体的取組

【国　語】

- 相手を意識し，読み手に分かりやすい文章で書くことの一つに，「一文の長さを適当な長さの複数の文に分けて書く」ことがあげられる。また，「接続語に着目することによって正確に文章を読み取る」ことにもつながっていく。文章を書く様々な機会を捉えて，文脈に沿って接続語の役割を理解するとともに，接続語を使って文を分けて書く指導を工夫する。
- 主語と述語の関係性に着目していわゆる“ねじれ文”とならないよう確認しながら，文章として組み立てていく指導は，低学年から各学年の発達段階に合わせて系統的に指導していくべき課題としてあげられる。具体的には，自分が書いた文章を，主語と述語の関係性を明らかにしながら，文の長さという点にも注目して読み返し，書き直していくよう指導する。
- 相手を意識し読み手に分かりやすい文章で書くこと目指して，文章を分かりやすくするために書き直すという学習過程を積み重ねて徐々に「書く力」を育成していく。
- 互いの書いた文章を読み合い，目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて，感想や意見を述べ合うことを通して，自分の文章のよいところを見付けることができるように指導する。

【算　数】

- 日常生活の問題を解決するために，一つ分の大きさ，幾つ分，幾つ分かに当たる大きさの関係を捉え，式に表したり，式の意味を説明したりすることができるよう指導する。（数と計算）
- 割合を用いて問題を解決するためには，問題場面の数量の関係を捉え，基準」量，比較量，割合の関係について理解し，数学的に表現・処理できるようにする。その際，日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり，図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるよう指導する。（変化と関係）
- 問題場面の数量の関係について，四則を混合させたり（　）を用いたりして一つの式に表すことができるよう指導する。また，目的に応じて，必要なデータを収集し，観点を決めて分類整理し，データの特徴や傾向に着目して考察できるように指導する。（データの活用）



◎今回出題された中から，全国の平均回答率が低く，本校の６年生として課題として考えられる問題を取り上げてみました。

※国立教育政策研究所の HP に全問題，正答例が掲載されています。よろしければ御参照ください。

◇国　語

設問１の（一）

情報と情報との関係を捉えたり，グラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるかどうかをみる。（知識・技能）

調査結果の分析
- 情報と情報との関係を理解するためには，様々な情報の中から原因と結果などの関係を見いだし，結び付けて捉えることができるようにすることが重要である。例えば，ある事象がどのような原因によって起きたのかを把握したり，明らかにしたりすることが大切である。問題の【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書いているが，選んだアイデアの問題点に対する解決方法を書いていない児童が多く見られました。
- 互いの意見の共通点や相違点，利点や問題点等を踏まえ，自分の考えをまとめることに課題が見られました。

【授業改善のポイント】

〇情報を整理する場面では，必要な情報に印を付けたり，情報と情報を矢印でつないだり， 表を用いてまとめたりするなどして，情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにする。また，情報を整理する際には，ICT 機器を活用する事により，編集したり視覚的に捉えたりしやすくなるので，情報を整理しやすくなる。また，互いの立場を明確にし，話し合う言語活動を充実させる。

活動例
- 文章を記述する場面では，友達と助言し合いながら，児童自身が自分の文章を何度も見直したり，書き直したりできるように指導する。
- 教師が，図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することを効果的に行う。特に，複数の文章を比べることで，図表やグラフなどを用いると，自分にとっても考えを深めやすく，相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるようにする。
- 自分の立場を明確にするために，話題についての自分の考え（現状と課題，解決方法，理由など）を付箋や学習プリントに書き出す。

◇算　数

設問２の（４）

高さが等しい三角形について，底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し，その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題　［図形］

調査結果の分析
- 二つの三角形の底辺の長さが等しいことを捉えることはできているが，高さが等しいことは記述できておらず，二つの三角形の面積が等しいと判断している児童が多く見られました。
- 二つの三角形の高さが等しいことを捉えることはできているが，底辺の長さが等しいことは記述できておらず，二つの三角形の面積が等しいと判断している児童が見られた。

【授業改善のポイント】

〇筋道を立てて作図の手順を説明することができるように，数学的活動を充実する。

活動例
- 図形を構成する要素に着目しながら，作図の仕方を多様に考える。
- 図形の性質を関連付けながら，作図の仕方について記述したり説明し合ったりする。
- 示された作図の手順を基に，どのような図形ができるかを予想したり，実際に作図して図形の性質を確かめ合ったりする。

〇ＩＣＴ機器を活用した活動を充実する。

活動例
- 図形を動的に観察し，図形の性質を見付けたり確かめたりする。
- プログラムの一部を変えることでいろいろな図形を作図できることに気付いたり，発展的に考えたりする面白さを実感する。

◇質問紙に関する調査について

①全体的な特徴

この「質問紙調査」は，「基本的生活習慣」「挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感」「学習習慣・学習環境」「学習に関する興味・感心や授業の理解度」などの状況を把握する内容となっています。善誘館小学校の児童は，多くの項目で「当てはまる」「どちらかというと当てはまる」などの肯定的な回答をしていました。以下に質問紙調査に関する詳細を示します。

②学習意欲や学習状況に関する内容

生活習慣や学習環境に関するほとんどの項目において，肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を上回っています。食事・睡眠など規則正しい生活ができており，自己肯定感も高いです。学校生活にも満足している児童が多く，ルールや仲間を大切にする意識が高いです。

家庭学習は，ここ数年の取り組みの中で少しずつ浸透してきています。特に，今回の結果から，学習時間については，本校児童は，「全くしない」解答が０人であり，全児童が平日にも土日にも必ず少しでも学習をしているという実態があり，家庭学習が浸透しているといえます。今後，ｅライブラリーの活用を奨励する等，家庭との連携を進めていく中で，さらなる家庭学習の充実を図り，基本的な学習習慣の定着を図っていきたいです。

社会の急激な DX 化にともない，家庭における本の保有冊数や新聞の購読率低下がみられます。読書好きな児童も多く，夏休み中も暑い中，図書館開設日には足を運ぶ児童がいる中で，全国的にも本校においても，読書の機会や新聞等からの「活字離れ」がうかがえます。また，インターネットの利用時間の増加も顕著なものとなってきています。読み聞かせ・朝読書・図書室での授業のさらなる工夫をして，より一層の読書活動の推進に努めていきます。

授業中に ICT 機器を使用する場面を増やしながら，日常的に ICT 機器に触れたり操作したりする機会を意図的に組み入れることを継続していきます。

◇令和５年度の学力向上の取り組み

（１）教師の授業力の育成

校内研究を中心に，授業力の向上を目指し研修をおこないます。学習形態を工夫（友達同士の学び合いの場面を設定する）すること，ユニバーサルデザインを取り入れた授業を工夫することで，児童の学びを深めていきたいと考えています。

（２）学習環境の整備

教室の壁面を利用し学習コーナーを設けるなど，日常的に学習環境を整える工夫をしていきます。ＩＣＴ教材を活用することで，児童の興味・関心を高め，楽しみながら学ぶ経験をもたせていきたいと考えます。

（３）安心して学ぶことができる学級

児童が「勉強したい」と思うためには，安心して学ぶことができる学級が必要です。「まちがっても大丈夫」「失敗しても大丈夫」安心して挑戦することができる親和的な学級づくりに取り組みます。学級担任であると同時に，学校担任として児童と向き合っていこうと思います。

以上が全国学力・学習状況調査の結果の概要と，それを踏まえた善誘館小学校の取り組みです。このような学力調査で計られる「学力」は，あくまで「学力」の一部です。何を理解しているか・何ができるか（知識・技能），理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力），どのように社会・世界と関わり，よりよい人生をおくるか（学びに向かう力・人間性）の３つの柱をバランスよく育成し，知・徳・体の調和のとれた『生きる力』を育成することを大切にしていきたいと考えています。また，保護者・地域の皆様には，学力調査の点数だけではなく，児童の意識・生活状況等を含めた「学校全体の状況（良い点や課題点）」も見ていただき，引き続き御理解と御協力をお願いいたします。